

施設・居住系サービス利用者実態調査の調査方法について

調査方法	利点	懸念事項
介護あんしん相談員の施設訪問による施設利用者への聞き取り調査	・施設利用者の意見を調査結果に反映できる。 ・施設利用者から直接聞き取り調査を行うため、調査の回答率が高くなる。	・令和元年度は32人の介護あんしん相談員で聞き取り調査を実施したが、令和7年度は13人で行うこととなるため、1人当たりの調査件数が令和元年度の2倍以上の調査件数となり、負担が増える。 (令和元年度 最多担当件数：18件、平均担当件数:11.1件) (令和7年度 最多担当件数：37件、平均担当件数:28.5件) ・調査内容を説明しながら訪問活動を行うため、通常の訪問活動より時間を要する。 ・施設利用者の介護度等の状況により、質問内容を理解しきれないまま回答してしまうことが考えられ、正確な回答を得られるか懸念される。 ・回答者（施設利用者）の介護度に偏りが生じる。 ・施設利用者に関する情報提供をしてもらうなど施設側の協力も必要となる。
施設利用者の家族へ郵送にて調査票を送付する調査	・令和4年度の調査と同様の調査方法であるため、調査結果が比較しやすい。 ・介護あんしん相談員や施設側の調査による負担が軽減される。 ・調査内容に関して正確な回答が得られやすい。	・施設利用者の意見が調査結果に反映しにくい。 ・郵送調査のため、調査の回答率が低くなる。